

## 器官・臓器の発生

(Fetal Development of Organs)

### 【責任者/担当者】

〔解剖学 細胞生物部門〕 八木 秀司 主任教授

### 【目的】

先天異常のもたらされる機序について類推できるようになるため、個体と器官が形成される発生過程を理解する。

### 【科目キーワード】

「胚子形成 (embryogenesis)」「器官形成 (organogenesis)」「先天異常 (congenital malformation)」

### 【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像を説明できる。
- ☐ 体節の形成と分化を説明できる。
- ☐ 体幹と四肢の骨格と筋の形成過程を概説できる。
- ☐ 消化・呼吸器系各器官の形成過程を概説できる。
- ☐ 心血管系の形成過程を説明できる。
- ☐ 胚内体腔の形成過程を概説できる。
- ☐ 鰓嚢、鰓弓の分化を概説できる。
- ☐ 脳の形成過程を概説できる。

### 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

### 【概要ならびに履修方法】

講義のみで構成される。

### 【準備学修ならびにそれに要する時間】

「ラングマン人体発生学」の講義予定部分を事前に読むこと(約 1 時間)。

**【成績の評価方法・基準】**

定期試験により評価する。なお、講義の出席に関して、成績の参考にすることがある。

**【学生への助言】**

特になし

**【フィードバック方針】**

定期試験の結果に関して、個別に答案を開示する。

**【オフィスアワー】**

講義期間中は人体解剖実習中のため、オフィスアワーを設けることができない。質問等は適宜受け付けるので、解剖学細胞生物部門(教育研究棟 9 階)を訪ねること。

**【受講のルール、注意事項、その他】**

特になし

**【教科書】**

「ラングマン人体発生学(第 11 版)」T.W.Sadler 著 安田峯生、他 訳  
(メディカル・サイエンス・インターナショナル)2016 年

**【参考書】**

「The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (11th ed)」  
Keith L. Moore、他 著 (Elsevier Saunders)2019 年  
「生命進化の偉大なる奇跡」アリス・ロバーツ 著 齊藤隆央 訳(学研プラス)2017 年  
「Langman's Medical Embryology (14th ed)」 T.W.Sadlery 著 (Wolters Kluwer) 2019 年

**【連絡先】**

教育研究棟 9 階 解剖学 細胞生物部門 セミナー室